

## 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 20年 5月 7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2871400426		
法人名	特定非営利活動法人にしきシャクナゲ		
事業所名	グループホームしゃくなげ		
所在地	兵庫県篠山市川北1174番地2 (電話) 079-593-0056		
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成20年3月29日	評価確定日	2008年5月7日

## 【情報提供票より】(平成20年 3月 1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 5 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 5 人, 非常勤 6 人, 常勤換算7.7	

## (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有 ( 100,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		780 円

## (4) 利用者の概要( 3月 1日現在 )

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護 1	1名	要介護 2	6名
要介護 3	1名	要介護 4	0名
要介護 5	1名	要支援 2	0名
年齢	平均 86 歳	最低 81 歳	最高 94 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	にしき記念病院
---------	---------

## 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム長は福祉、医療の資格を持ち認知症になってもその人らしく暮らせるホームを目指している。日常生活行為に介助が必要になっても今までの生活が継続できるよう支援し、医療との連携を図って利用者に負担となる入院を回避できるよう努めている。1ユニット平屋建ての木のぬくもりが感じられる吹き抜けの木造家屋のホームから、裏庭の野菜畑を眺めたり、気が向けば外に出て野菜の手入れをする等、利用者主体の理念を重視し、穏やかな日常生活に配慮している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	利用者、家族の権利について、契約書に明記した。地域交流の促進については子ども会の来訪を受けていたが、子どもが少なくなり、今は婦人会に来てもらっている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	管理者と職員で自己評価を行った。評価を通して、支援の全体を振り返ることができ、利用者や家族に理解と協力を得るためコミュニケーションの大切さも再確認した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	家族、市役所職員、地域代表、介護相談員、管理者等固定メンバーで定期的に行っている。事業所から現状報告、出席者から、防犯灯設置の必要性等について、質問や助言をもらい、双方向の話し合いがなされている。外部評価についても報告している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	家族は殆ど毎月来訪している。事業所からは個別に3~4ヶ月毎に利用者の暮らしぶりを知らせているが、事業所の取組みや職員の移動等知らせるホーム便りは出されていない。家族が全員一同に集まるのは難しく、家族会は開かれていない。ケアプランの説明時に十分時間をかけて苦情、不安等聞くように努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	自治会に加入し、利用者は地域住民として行事やスポーツ等の活動に参加したり、買い物、散歩等も住民との交流の機会としている。地域のボランティアがホームを訪問し、買い物、掃除、音楽療法等の支援をしている。

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・「人としての尊厳と役割を持ってその人らしく暮らすのが誰もの願いである」を理念としている。開設以来地域に密着して、地域の住民が利用者であるとの意識を持っている。そのため特に地域密着型としての理念は作っていない。		・管理者は利用者にとってホーム内の生活が主体であり、理念は特に地域密着についてはうたっていない。地域でその人らしく暮らすのを支えることを理念に加えるよう提案したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・ホーム長が職員に面談して、理念の確認をしている。日常生活で利用者の能力に応じた役割を持ち、その人らしく生活できるよう理念の実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地域の行事に利用者が一緒に参加し、買い物、散歩等で地域の人々と交流の機会を持っている。地域ボランティアがホームで、買い物、掃除、音楽療法等の活動を行っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・管理者と職員で自己評価を行った。評価を通して、支援の全体を振り返ることができた。職員はケアや対応の仕方を利用者や家族に理解し協力してもらうため、コミュニケーションの大切さを再確認した。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・家族、市役所職員、地域代表、介護相談員、管理者等固定メンバーで定期的開催している。事業所から利用者の暮らしぶりの説明、出席者から環境問題等の助言をもらいサービスの向上に活かしている。外部評価についても報告している。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・運営推進会議以外では、法的な相談等をしている。</p>		<p>・事業所の実情や考え方を市に理解してもらい、課題解決に市の支援が得られる状態を作る取り組みが望まれる。</p>
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・家族は殆ど毎月訪問されるが、個別に利用者の暮らしぶりを写真・メッセージを添えて3～4ヶ月に1度送っている。健康状態についてはその都度、金銭管理は月1回報告している。職員の異動は知らせていない。</p>		<p>・事業所の取り組みや職員の異動についても、全家族にホーム便り等で情報提供することを望みたい。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・面会時、苦情や不満があれば話してもらうよう伝えている。ケアプランの説明時には時間をかけて、家族等の意見を聞いている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・職員の子どもをスタッフルームで一時預かったり、勤務時間を工夫したりして職場環境作りをしている。代わる場合は引きつぎに時間を掛け、他の職員もカバーしてダメージを少なくしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	パートも含め全職員に研修の機会が与えられている。外部研修や事業所内での研修も必要に応じ行っている。ケアの方法や注意事項は、働きながら確認している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・グループホームの連絡会はないが、施設部門の事業者連絡会に所属して、意見交換や研修に参加している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・利用前に見学してもらったり、利用者宅を訪問し、暮らしぶりの観察、生活歴を聞いて、日常生活状況を確認し、安心して利用できる環境整備を心がけている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	・草引き、テーブル拭き、おしぼり、洗濯物たたみ等その人にできる役割を持ってもらい、生活の知恵を教えてもらいながら共に支えあう関係作りを行っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・日常のかかわりを通して、利用者一人ひとりの意向を把握をしている。家族面会時に本人の希望等の助言を受けることもある。</p>		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・ホーム長がケアマネジャーであり、医師の意見等を参考にし計画原案を作り、職員と検討修正し、家族の同意を得ている。利用者には説明していない。</p>		<p>・主体者である利用者に介護計画の説明することを望みたい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・月1回の支援会議で計画を検討、必要があれば見直しをしている。常時しっかり観察し、気づいたことを職員間で話し合っ、見直しのヒントにしている。定期見直しは6ヶ月に1度行う。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>・基本は出来るだけ入院はしない方向で支援している。本人、家族の希望により併設デイサービスの利用、体験入所もしている。利用者の状態や希望があれば、気分転換も兼ねて車でドライブをすることもある。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・協力医を基本としているが、希望があれば個別に対応している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・契約時に、希望があればターミナルも可能であることを説明し納得してもらっている。家族、本人が安心できる環境づくりのため、職員への気づきや、方針の共有に努めている。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>・利用者一人ひとりの特性を理解する中で、個性を把握し全職員が周知するよう努めている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・個々の過ごし方の希望やしたいことの強い希望は少ない。本人の状態に配慮して、職員が声かけをしたり促すなどして過ごし方の希望につなげている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者も参加するメニュー検討会から、買い物、調理、後片付け等一連の流れを利用者と一緒に日常的に行っている。個別の好みのメニューも随時入れながら、食事が楽しみの時間となるよう心がけている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・午後を入浴時としているが、その都度利用者の意向を聞いている。		・利用者一人ひとりが希望が出せる工夫と努力が望まれるとともに、希望に添える環境づくりの検討を期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・過去の日常生活で毎日行ってきた自分の生活を活かす支援をしている。月1回の音楽療法は、全員の楽しみと気晴らしになっている。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・散歩や買い物を日課の楽しみとしている人もいるが、気候のいい時は、できるだけ職員が声をかけて外出を促している。職員が用事で車を使う時には、利用者の希望でドライブすることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・夜間の防犯上の施錠のみである。居室の施錠については、本人の希望によって行っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>・年2回、地域の消防団と合同訓練を行っている。利用者の状況や対応について把握してもらう機会となっている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・大まかな栄養のバランスに配慮しつつ、個々の食量は把握している。状態変化があれば、必要によって即時医療的な対応をしている。</p>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・木造のログハウス風の建物で、室内は床暖房が完備され、木の香りと適度な室温に保たれている。食事に関する行為を大事にしており、複数人での調理作業がしやすい広さと設備を備えている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・内装も木材ですべて統一されている。利用者が大事にしていたとわかる物や、長い間使用していた身の回りの品が、適度に置かれその人なりがうかがわれる。食器類等も個々に持参したものを使用している。</p>		

 は、重点項目。